



飛龍―高知中央 第4クォーター、3点シュートを放つ飛龍の伊東潤司(中央) 東京体育館

複数で囲み、体をぶつけ、ボールに食らい付く。飛龍は1回戦で44得点した高知中央の203センチシエリア人、ジョセフネリーを自由にさせなかった。37得点は許しても、「痛い失点は少なかった」と原田監督。県内で鍛えた留学生対策がきっちりかみ合った。

金井、伊東主将らが相手ガードに徹底して圧力をかけた。「留学生にも

5人連動 外国人封じる

ボール運びをさせて外に引き出した」と伊東。内角ではリユウ、奥村らが密着し、ジョセフネリーにいい体勢でボールを持たせない。5人が完璧に連動した。

攻めては内外自在のパス回しで相手守備を翻弄(ほんろう)した。伊東は3点シュート8本を含む30得点。特に前半は「ドライブを警戒する相手の意識を外に向けようと思った」と5本を決めた。

32―29で迎えた第3クォーター。狙い通り相手の内角の守備が緩んだところを松下らが切り込み、ゴール下では192センチのリユウが留学生と渡り合った。「決定機をきっちり決められた」。第3クォーター終了間際にはリバウンドをもぎ取り、そのままリングへ。リードを10点に広げ、試合を決定付けた。

(山本一真)